

公益財団法人 檜の芽会 御中

伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】	① 作成日		令和6年4月18日
②法人・団体名	特定非営利活動法人 マナビファクトリー		
③所在地	〒146-0081 東京都大田区仲池上一丁目23番4号リアノーム・K101		
④責任者氏名	石井 光生	(役職名等)	理事長
⑤担当者氏名	石井 春里	(役職名等)	事務局

【奨学活動の概要】					
⑥助成交付決定番号	R05-017	⑦助成金額	50万円	⑧申請カテゴリー	C
⑨奨学活動名	生活困窮世帯の中高生への学習支援				
⑩主な実施場所	東大井区民集会所第1～3集会室・グリーンヴィラ代々木105				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式3-2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

低学力になる傾向にある生活困窮世帯の子どもたちに対し、学習支援と食育活動の2本の柱で活動を行っている。令和5年度は1198人の中高生が参加し、723人のボランティアスタッフが継続的に活動に携わった。

活動成果としては、中学3年生7人の進学が決定し、高校生1名退学者も出たが連携している通信制高校が受け皿となり高校生活を続けられる運びとなった。他学年の学習面においても学力向上の傾向が見られた。食育活動を通じては学年を超えた交流が見受けられスタッフと子ども間だけでなくコミュニケーションの場となった。

主な購入品としてはクリスマス会や誕生日会などのイベントを開催する際のプレゼント代やお菓子代、生徒数が増えたことによる備品(机など)の購入、生徒の受ける模試費用の負担などがあった。

子どもたちは自主的に参加してくれているが保護者との繋がりがまだ希薄なため、その点を強化していきたい。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式3-2等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A：人)	平均時間 (B：時間)	活動量 (A x B)	備考・補足
中学生等	985	3	2955	
高校生等	210	3	630	
大学生等	0	0	0	
学習支援員等	723	3.5	2530.5	準備・片付け・ミーティング時間含む
その他				
合 計			6115.5	

⑬その他の定量的な数値（任意）

令和 5 年度 伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：

法人・団体名：特定非営利活動法人マナビファクトリー
作成者 氏名：石井 春里

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

- ・品川区大井町教室（生徒 22 名）毎週土曜日 14:00~16:00
- ・渋谷区代々木スペース（生徒 22 名）毎週火曜日 18:30~20:30/毎週土曜日 17:30~19:30

【取り組んだ課題】

地域の小中高生の貧困問題

【実践した目的】

親の失業・離別・死別等に起因して生活困窮状態に追いやられた子どもたちが、環境的な要因によって進路等の選択肢が狭められていたり、日々の食事も満足に得られない現状があった。

そのため、弊団体をはじめとする地域の団体・企業・個人が連携を取りながら、少しでも子どもたちや保護者たちの「頼る先」となれるような活動を実践した。

【実施内容】

<学習支援>

- ・品川区大井町教室（生徒 22 名）毎週土曜日 14:00~16:00
- ・渋谷区代々木スペース（生徒 22 名）毎週火曜日 18:30~20:30/毎週土曜日 17:30~19:30

<居場所支援>

- ・こどもテーブル事業（対象：代々木スペースの登録生徒およびその弟妹）第 3 木曜日 18:30~20:30
- ・各種イベント（対象：代々木スペースの登録生徒およびその弟妹）随時

2. 実施した奨学活動の詳細



品川区大井町教室の学習時間の様子



渋谷区代々木スペース・クリスマス会の様子

【参加人数】

- ・品川区大井町教室：生徒 22 名、延べ参加 520 人
- ・渋谷区代々木スペース：生徒 22 名、延べ参加 678 人



とんかつまい泉さんより
ボランティア活動



チラシを作り地域の中学校へ配布

【地域とのつながり】

- ・とんかつまい泉、パン屋塩見、フードバンク渋谷、富谷商店、恵比寿ママ食堂からの食品提供
- ・青山学院大学、清泉女子大学、立正大学、桜美林大学との連携とボランティアスタッフの受入

【学習支援員について】

携わったボランティアスタッフ総数延べ 723 人

【購入した機材・物品の写真（助成表示用シールの貼付）】



購入した備品(机×10台)



3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

【本活動から得られたもの】

学習支援だけではなく、毎回の教室の休憩時間に食事支援として、他の生徒やスタッフたちと夕飯を食べる時間を設けたことにより、教室内で友人関係が生まれたり、コミュニケーションが円滑になった。学校にも家にも居場所がない子どもも少なくない中、居場所としての環境も提供できたことは有益だったと感じる。

また、全体で中学3年生の生徒が8名在籍していたが、いずれの生徒も希望通りの進路先に進学することが出来た。教室に通い始めた際には、将来や進路について悲観的に考えていた生徒も多かった中、支援を通して学力やモチベーションの向上に繋がったことで、この結果に至ったと考えられる。

【反省点】

本助成金を受け取るにあたり、予算のとおりを使用することが出来なかった。

特にボランティアスタッフ一部有償化を実現し団体をステップアップさせるという目標を遂げられなかった。

もう1つに、保護者との繋がりがまだ希薄な現状である。品川区大井町教室においては中学3年生の3者面談を実施することが出来たが、代々木スペースでは一部の生徒のみにとどまった。

【課題】

今後計画的に保護者との予定を調整して面談を行い、子どもたちだけでなくその親たちも気軽に問題や悩みを相談できる場としていきたい。

【今後への発展性】

外部講師を招いたキャリア教育や外部施設を利用した課外活動など、教室内だけで完結するのではなく様々な人や場所で経験をしていき子どもたちのますますの意欲向上に取り組んでいきたい。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

ひとり親家庭の子どもたちが通っているため、時として自虐的に自分の家庭状況について互いに話したりする状況が見受けられる。そこからネグレクトや、本人も気づいていないヤングケアラーとしての家庭での立ち位置などといった家庭内での深刻な問題も話の中からうかがえる。学校でも家庭でもない第三の居場所として私たちに何が出来るのか模索していきたい。

5. 学識者からのご意見、コメント、等（申請カテゴリにて「S」が付されている団体）